

月日と行事名	行事の内容・由来	料 理
1月15日 <small>こしょうがつ</small> 小正月 <small>さいかみ</small> 歳の神	古いこよみのなごりから、女の正月、もちの正月とも言われる。 正月かざりを一カ所に集め夕食後、村中集まって燃やす。	もちをついて祝う。このもちを歳の神の火で焼いて食べ <small>びょうき</small> 病気にならないことを願った。
2月3日 <small>せつぶん</small> 節分	<small>りっしゅん</small> 立春の前日。神を迎えるためのおはらい。炒り豆を年男がまく。	炒った大豆を自分の歳 <small>とし</small> の数ほど食べる。
3月3日 <small>ももせつく</small> 桃の節句	女の子が <small>ぶじせいちよう</small> 無事に成長するよう願って、ひな人形をかざる。	草もち、ひしもちをそなえ、甘酒 <small>あまさけ</small> をのんで祝う。
3月21日 <small>ひがん</small> 春の彼岸	<small>しゅんぶん</small> 春分の日 <small>ぜんご</small> の前後7日間を彼岸 <small>ひがん</small> といい、祖先 <small>そせん</small> の魂 <small>たましい</small> をとむらう。	もち飯 <small>めし</small> をまるめて小豆あんをつけた「ぼたもち」をつくる。
3月24日 <small>だいはんにゃこう</small> 大般若講	かく地区のお寺に集まり大般若 <small>だいはんにゃこう</small> 経を讀んでもらう。	<small>せきはん</small> 赤飯をたいてそなえる。
5月5日 <small>たんごせつく</small> 端午の節句	男の子の祝いで、こいのぼりをあげ武者人形 <small>むしゃにんぎょう</small> をかざる。	魔よけ <small>ま</small> の菖蒲湯 <small>しょうぶゆ</small> にはいたり、菖蒲酒をのむ。ひしまき、つのまき。
5月下旬 さなぶり	村全体が田植え <small>たう</small> を終えた祝いで、村休みにして田の神 <small>いわ</small> を祝う。	もち、ニシンの山椒漬 <small>さんしょうつけ</small> 、酒など。